

解答例

1. 各 $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in V$ とスカラー $a, b \in \mathbf{K}$ に対し $f(a\mathbf{u} + b\mathbf{v}) = af(\mathbf{u}) + bf(\mathbf{v})$ が成り立つこと.

2. (1) 1

(2) 0

(3) 1

(4) 1

3. (1) 固有値は $-1, 4$. $P = \begin{pmatrix} 1 & 2 \\ -2 & 1 \end{pmatrix}$

(2) 固有値は $1 \pm 2\sqrt{-1}$. $P = \begin{pmatrix} 2 & -2 \\ \sqrt{-1} & \sqrt{-1} \end{pmatrix}$

(3) 固有値は $-1, -3$. $P = \begin{pmatrix} 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \\ 1 & 1 & 0 \end{pmatrix}$

(4) 固有値は $1, 2$. $P = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 1 & 0 \\ -2 & -2 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & -1 & -1 \\ 1 & 0 & 2 & 0 \end{pmatrix}$

4. $\mathbf{u}, \mathbf{v} \in V(\lambda)$, $a, b \in \mathbf{C}$ とすると, $A\mathbf{u} = \lambda\mathbf{u}$, $A\mathbf{v} = \lambda\mathbf{v}$ だから

$$A(a\mathbf{u} + b\mathbf{v}) = aA\mathbf{u} + bA\mathbf{v} = a\lambda\mathbf{u} + b\lambda\mathbf{v} = \lambda(a\mathbf{u} + b\mathbf{v}),$$

よって $a\mathbf{u} + b\mathbf{v} \in V(\lambda)$. 従って $V(\lambda)$ は部分ベクトル空間である.

解説

1. 和とスカラー倍について別々に述べてあってもよい.

2. $f_k(\mathbf{u}) = \mathbf{0}$ となる \mathbf{u} の一般形を, 連立方程式を解いて求めるのが一番簡単だろう. いずれの f_k も, 何らかの行列 B_k を使って $f_k(\mathbf{u}) = B_k\mathbf{u}$ と表せるから, $\text{rank } B_k = \dim \text{Im } f_k$ を計算し, 次元定理 $\dim \ker f_k + \dim \text{Im } f_k = n$ (ただし n は f_k の定義域の次元) に代入して求めることも可能である. もっとも, これは連立方程式を解いているのと等価である.

3. 固有値は固有方程式 $|tE - A| = 0$ の解であった. それぞれに属する固有空間の基底を求めてすべて集めたものが \mathbf{C}^n の基底になっていれば対角化可能で, P としてはそれらの基底 (縦ベクトル) を横に並べて得られるものを取ればよい. 答は基底の取り方によって変わりうるから, 上の解答例と異なる答もあり得る. なお A_1 は対称行列で, (1) の解答例の P を $1/\sqrt{5}$ 倍すると直交行列になる.

4. 講義では, $f: \mathbf{C}^n \rightarrow \mathbf{C}^n$ を $f(\mathbf{u}) := (\lambda E_n - A)\mathbf{u}$ で定めれば $V(\lambda) = \ker f$ で, $\ker f$ はベクトル空間だから $V(\lambda)$ もそうである, という説明をした. これももちろん正解.

配点: 5, 20, 20, 5 (各小問一つにつき 5 点, 50 点満点)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/16_linear/16_linear.html